



S H U N K E N 2 0 0 6 - 1 1 3 4 - 0 3



大西正紀



講評会風景

「2006年度スーパー Jury」が10月7日（土）に、駿河台校舎1号館 CST ホールにて行われた。これは学年・クラスに分断され行われている設計科目から優秀作品を一堂に集め、横断的に講評会を行うもの。今年で4度目の開催である。全体講評会に先立ち、10月2日（月）～7日（土）の1週間、駿河台校舎1号館 CST ギャラリーで展示が行われ、学部1年から大学院1年までの前期課題から選ばれた優秀作品約40点の図面や模型が展示された。

スーパー Jury では展示作品の中から2～4年の課題21点について、本人による発表とゲストクリティックと非常勤講師による講評会が行われた。講評会に参加していただいたゲストクリティックの方々は、赤松佳珠子（C+A tokyo）、菊地宏（菊地宏建築設計事務所）、萩原剛（竹中工務店設計部）（敬称略）の3人の建築家。非常勤講師の方々は、川口英俊、山中新太郎（敬称略）の2人の建築家。司会を今村雅樹教授が務めた。CST ホールには大勢の学生が詰めかけ、今回も昨年同様ビデオカメラを導入し、正面のスクリーンに講評の対象となる図面と模型をリアルタイムで大きく映し出した。それにより、後ろの席からも緊迫した講評会の様子が十分に感じられ、迫力のある講評会を行うことに成功した。

講評会後は1号館2階のカフェテリアに場所を移し、懇親会が行われ、各参加建築家からスーパー Jury 参加者に賞が贈られた。各賞にはそれぞれの建築家の名前が付けられ、激論の末に本人たちが自ら選び出した。以

下は、その受賞者発表の際に述べられたスーパー Jury への総評と入賞者に対する各建築家のコメントである。

●赤松佳珠子賞：岩楯美穂＋畑中千賀子（4年）

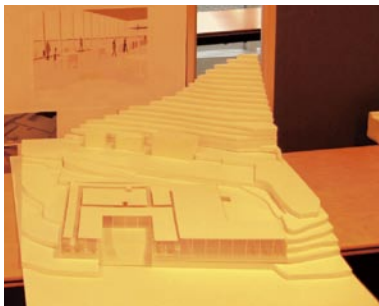
課題に対して自分なりの発想をきちんともっている人たちの課題を見ることができておもしろかったです。非常に優秀な人が多いと思う一方で、模型を作っていく時に内部からの視点というものが、あまりなかったように思います。その空間に自分が入っているシーンを想像する、外と同時に内部的な視点をもう少しもつようにして、もっと大きな模型をががんに作りましょう。

私の賞は谷中にアートの空間を作った畑中さんと岩楯さんです。2人の案は指摘される問題も多々ありましたが、空間のプロモーションや成果物の独特のセンスは、かなりオリジナリティーのあるものだと思います。

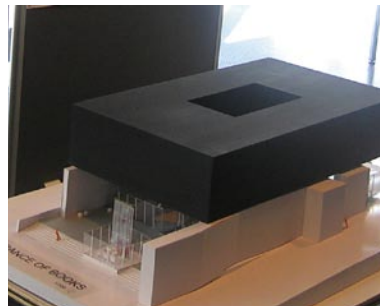
●菊地宏賞：小山政幸（3年）

学生は時間がたくさんあるので、他の学校と交流を深めたり、旅行をいっぱいしたり、いろんな経験をしてください。目から入ってくる感覚や体で感じることを今のうちにいっぱいやっておくと、後々設計に携わった時に役に立つと思います。これからも幅広く頑張ってください。

菊地賞ですが、はっきり言えば時代の被害者的な感じですか。ヨーロッパから輸出され今最も流行っているデザインをどうにかそれぞれの国に着地させなくては行けない。そういう中でも頑張ってくれた小山君に賞を与えたいと思います。



萩原剛賞 向山 咲



川口英俊賞 池田 琢



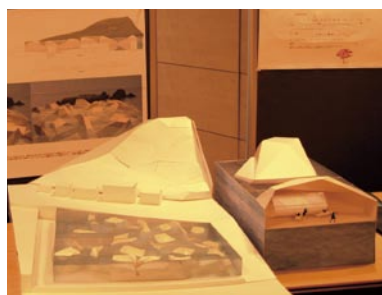
山中新太郎賞 場的弘之



展示風景



赤松佳珠子賞 岩橋美穂+畑中千賀子



菊地宏賞 小山政幸

●萩原剛賞：向山 咲（3年）

こんな情熱の入った講評会は、他の大学にはあまりないなと思いました。学生の皆さんは課題を通して学んだ発見を決してつぶさず進んでいってほしいと思います。

私の賞は、設計コースを選んでいない向山さんに差し上げます。非常に素直な造形でいい作品でした。環境コースだそうですが、今から設計に移行してもいいかと思えますので、もう一度考え直してみてください。

●川口英俊賞：池田 琢（3年）

年々、みんなは先生方の意見を取り入れられるようになってきていて、レベルは上がってきているなと感じます。あとは、言葉やボキャブラリーや知識の問題。いろいろな本を読んだり、映画を見たり、美術館に通ったり、そういう努力を日々惜しまないで今後進んでください。

川口賞は迷っていたのですが、池田君です。彼の作品は、物議を醸してくれて、いろいろな考え方を僕らにも思い起こさせてくれました。

●山中新太郎賞：的場弘之（2年）

私は今年で3回目の参加となりますが、今年は審査側の方が議論をしたくなるような作品が多く、すごく楽しめました。

賞は的場くんです。彼の住宅は非常にいいセンスをしていると思います。あるリアリティがありながら、かつ非常に2年生らしい実験的なこともできていて、非常に将来が楽しみだなと思いました。頑張ってください。

（おおにしまさき・助手）

1年	デザイン基礎	第2 課題 前川邸図面	金丸廣子、鎗木雄太、斎藤大輝、田中里佳、目黒祐己、森田有貴
		第3 課題 建築のスケッチ	赤瀬玲央奈、宇田川まりか、黒沢梨絵、三平奏子、穴倉 翠、新城雄史、鈴木直樹、高野真由美、田中麻未也、古戸利和、水谷 亮、安水瑠里
2年	建築設計II	第1 課題 住宅	岩木友佑、下大園将人、的場弘之、吉宮沙織
		第2 課題 パブリックスペース	楠 友介、瀬崎康平、高瀬治郎、夏目将平
3年	建築設計IV	第1 課題 〈設計計画コース〉 21世紀図書館	池田 琢、竹島淳二
		第1 課題 〈企画経営・環境・構造コース〉 まちのライブラリー	木下亮佑、上野美佳子
		第2 課題 〈設計計画コース〉 長者ヶ崎コンプレックス	小山政幸、倉又式子、土屋敬祐
4年	建築設計VI	第2 課題 〈企画経営・環境・構造コース〉 長者ヶ崎コンプレックス	佐藤拓也、向山 咲
		ビルト・エンバイロメントの再構築	田尾繁太+横井創馬+熊谷政敏、櫻田和也+高橋惠多+村瀬友輝、珠玖 優+祖父江一宏、岩橋美穂+畑中千賀子
M1	建築デザインI	再生	〈横河ユニット〉 渡辺真元 〈今村ユニット〉 須賀博之 〈雷永ユニット〉 今田明宏 〈藤江ユニット〉 朝 永吉

展示出品者リスト



受賞者決定の審査風景



懇親会風景



受賞者発表と賞状授与の風景

インテリアデザイン2006

夏期集中授業

今村雅樹



壮観な作品展示風景

この授業は、去年から開講予定であったが都合により本年から実施されることになった。インテリアデザイン熱が高い学生諸君の要望もあって、5日間の集中授業の中に「講義」と「実習」を両方盛り込んだ密度の高いものとなっている。

5人の建築家による5日間の授業には、3年生と4年生あわせて160人が参加し、午前中に日替わりで各講師によるレクチャーが行われ、午後には2~3人が1組になってワークショップにより今年の課題「LOVE-CHAIR」の製作が行われた。学生たちは連日泊まり込みで5号館の4階と5階を使い、段ボールやベニヤ、紙やプラスチック板などを使い、1/1の実寸で製作を行った。

途中でチームが崩壊したり、最終成果物に人が座って壊れたりした場合は単位がもらえない、という厳しい条件のもとに60チームが今年のテーマをそれぞれ解釈しながらの試行錯誤がなされた。

最終日には5号館と9号館の中庭デッキ広場に陳列され、まるで東京デザイナーズウィークのプロ作品展よろしくそれぞれの学生が自分たちの作品の前で、審査員に

プレゼンテーションを行った。講評会には女子美術大学教授の飯村和道氏（本学出身）にお出でいただき、選考に加わっていただいた。

結果、以下の6作品が優秀作品として選ばれた。

- ・インテリア大賞：PIECE CHAIR「中島 巴+原田早矢香+野田亜友美（3年生）」チーム
- ・城戸崎賞：「小野志門+北川健太+田尾繁太（4年生）」チーム
- ・川口賞：「瀧口 優+高橋恵多（4年生）」チーム
- ・横河賞：「入交由佳+岩楯美穂+畑中千賀子（4年生）」チーム
- ・今村賞：「阿由葉秀平（3年生）+一條真人+横井創馬（4年生）」チーム
- ・飯村賞：「岸 裕太+遠藤紗貴子+松岡伸明（3年生）」チーム

指導講師：城戸崎和佐，川口英俊，桑原立郎，
横河 健，今村雅樹（担当）

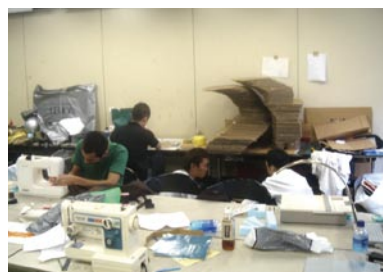
（インテリアデザイン幹事・いまむらまさき・教授）



午前中の川口先生によるレクチャー



EVホール前での製作風景



ミシンまで持ち込み仕上げに全力



女子美大の飯村先生



試座する横河先生，城戸崎先生



高宮先生（右）も試座



「壁の中」椅子制作者と



講評会の審査員



最終選考のプレゼンテーション風景

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
今村																				
横井	0																			
川口	0																			
堀内	0																			
飯村																				
計	2	1	1	1	2	3	1	1	3	2	2	1	1	2	4	2	1	1	1	2

全作品を採点し優秀作品を選ぶ

● 優秀作品に選ばれた設計および製作者からのコメント
「99papers」 〈机工房〉 小野志門

あたりまえの日常の積み重ねが、二人にとってはかけがえのない非日常となるように、僕らは紙という「あたりまえなモノ」を積み重ね続けた。座り手のために無数の紙を重ね続けた1週間は、作り手である僕らをまた一つ成長させてくれる貴重な日々として積み重なったのではないだろうか。

「二人で探す心地よい場所」 高橋恵多, 瀧口 優

インテリアデザインで求められたものは、これまで経験できなかったヒューマンスケールによるディテールのデザインとそれに伴う高いリアリティだった。四角く硬そうなイス。その中に隠された二人の居場所。

「とろー」 岩橋美穂, 畑中千賀子

建築とは想像を現実にする仕事である。今回の授業で初めて私たちの想像は現実になった。そこには感触、詳細、施工、工程、予算などの問題が発生した。それらを

3人で考え、完成後、座った時の達成感と疲労感は、今までの課題では味わったことのない心地よいものだった。

「風景はゆがむ」 横井創馬

本課題では、「図面や模型が1/1になったときの誤差」「従来の椅子とは違う、人と椅子の織りなす風景」「家具で重要な感性に訴えかけるデザイン」の3つの実験をテーマに取り組んだ。

さまざまな結果が得られたが、建築の観点から見ると家具のもつ可能性は未だ語られていない部分が多く存在するように思った。

「1つのイスに2つのセモタレ」

遠藤紗貴子, 岸 裕太, 松岡伸明

SUMのコンセプトは、2つのイスを重ね合わせ、人と人のLOVEに繋げていくこと。

1/1スタディーや共同作業、講義を通して、スケール感、ディテールや素材を捕らえる力がついたと思う。



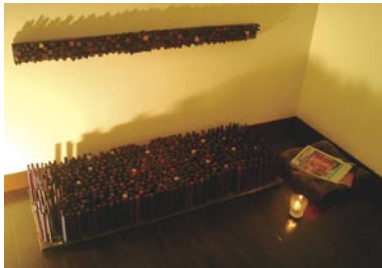
インテリア大賞 中島 巴+原田早矢香+野田亜友美チーム



「99papers」 小野志門+北川健太+田尾繁太



「二人で探す心地よい場所」 瀧口 優+高橋恵多



「とろー」 入交由佳+岩橋美穂+畑中千賀子



「風景はゆがむ」 阿由葉秀平+一條真人+横井創馬



「1つのイスに2つのセモタレ」 岸 裕太+遠藤紗貴子+松岡伸明

デザインワークショップ I・II

夏期集中講義報告

宇杉和夫，佐藤 文，
安田博道，山中新太郎



【マチ発表】ワークショップディスカッション風景



【学内発表】作業風景

デザインワークショップ I・II は設計・計画コースの学生が受講できる選択科目（1単位）で，今年は第2回目となる。7月19日（水）にガイダンス，8月2日（水）～8日（火，CSTホールにて発表）まで，駿河台5号館の製図室を利用し，集中的に実施された。今年の担当は宇杉和夫（専任，事務担当）と佐藤文（K+Sアーキテクト）と安田博道（環境デザイン・アトリエ）と山中新太郎（山中新太郎建築設計事務所）の4名が担当した。

今回は昨年の実績を踏まえ，どのように進めるかについての議論と検討に時間を割いた。結果として，第1に全体で共通のテーマをもつ，第2にできるだけ具体的な場所・地域を対象とする，第3にその場所ではできるだけ見に行きやすい場所がいい，第4に参加者のさまざまなアプローチが可能となるものとする，第5に地域（居住者など）に対する提案としてコミュニティへの参加意識をもたせる，などとなった。具体的な場所・地域としてどこが適切かを，事例を挙げて詳細に議論した。そして今回の芝・三田地区に至った。選定の理由は，日本建築学会にまちづくり支援建築会議（会長 村上周三）が発足し，その最初の支援が『芝・三田まちづくり倶楽部』に対して行われることになったことと，前述の条件にかなう場所であったことである。対象地域は日本建築学会のあるマチである。7月30日（日）には「芝・三田まちづくり倶楽部の集い」のワークショップが地元の方々の触れ合いができた。また，同倶楽部代表の藤島祥枝氏が7月のガイダンスから参加し，8月8日の学内発表会でも積極的な発言をされた。また今回のもうひとつの特徴は，最初から「学内発表」とあわせて「マチ発表」が目標になっていたことである。学生諸君の提案も最初からマチに対する意識が強く，「学内発表」ではさまざまな提案に藤島氏がびっくりし，学生諸君も藤島氏の評価に耳を傾けていた。結果として「マチ発表」は全員合意で全案発表したいということになった。折よく建築会館の建築博物館ギャラリーが空いており，9月23日（土）～26日（火）まで「芝・三田まちづくり展—芝・三田まちづくりの共通イメージを考える—」（建築学会主

催）が開催され，全作品が展示された。26日午後には市民参加の発表・ワークショップの意見交換があり，村上周三会長（慶応大学）のご挨拶もいただいた。今後，それぞれの案が芝・三田地区のまちづくりに大きく貢献していくように期待される。夏期1週間の成果であることが見学者・参加者の一様の驚きであった。

●宇杉和夫ユニット：参加者 11名

テーマ「境界のデザイン—路地・緑・景観—」

【課題主旨】

まちづくりの中でパブリックスペース，コンモンスペースのデザインは最重要課題の1つといえます。

では，だれがこのコンモンスペースのデザインをするのか考えてください。市民ですか，建築家ですか，アーティストですか，それを次のように考えてみてください。

コンモンスペースのデザインにはコモンイメージ，パブリックイメージの形成が欠かせない。地域の人々の共有できる空間イメージ，コモンイメージがあって，初めてコンモンスペース，コンモンスペースデザインに成りえる。まず，三田マチのコモンイメージについて考えてみましょう。

【宇杉和夫先生からのコメント】

「コンモンスペースのデザインにはマチのコモンイメージの形成が欠かせない，コンモンスペースとは境界空間のことです」のテーマ解説から始まり，6つの案となった。どれも貴重な提案であるが，芝浦海岸までの御田神社参道「新潮見坂」，路地居住空間継承の「ROJI 保存再生」，三田通りに三田用水再生を提案した「水のマチ三田」が力作であった。江戸の入口空間「古川・赤羽橋再生」，三田の丘陵と海岸の関係をお祭り空間で再生する「祭り再生」，育児のできる都市環境「まちひろば」は特色のある指摘となった。ワークショップでは路地についての議論が沸いた。

●佐藤文ユニット：参加者 14名

テーマ「街の中のボーダーを読み替えよ」

【課題主旨】

街の中には目に見えないさまざまなボーダー（境界）が存在します。敷地境界，道路境界，用途地域，地区，

商店街、歴史的な文脈による境界など挙げればきりがありません。

今回のワークショップの共通エリアである三田の街を歩いてみると、共同住宅やオフィスビル、大使館、病院、学校、商店、工場など、さまざまな用途の建物が混在しているのがわかります。それらは規模、高さ、スタイル、歴史的な意味において、それぞれの価値基準によってまちまちに建てられているかのようです。

そこでこの課題では、街のある一画を選び出し、そこに何かを《付加》あるいは《削除》することによって既成のボーダーを読み替え、ばらばらに存在する建物や人々の生活を繋ぐ提案を求めます。

【佐藤文先生からのコメント】

擁壁沿いに周回路を提案した「ちかミチ／まわりミチ」と商店街の分断をブリッジによって改善する「ミタブラシナイ？」は着眼点も含めて力作であった。公開空地を利用しさまざまな住民を繋げようという「コウカイクウチ」や路地の問題点を見つけ出し個別に提案した「ミチツラカノウセイ」、休日のコインパーキングを鮮やかにマーケットに変容させる「TRACKMARKETCITY」など多岐に渡る視点での提案があった。

●安田博道ユニット：参加者 14 名

テーマ「緑と建築」

【課題主旨】

フランスの建築家ル・コルビュジエはかつて「300万人のための現代都市」で、緑にあふれた広場と高層建築を提案した。自然は建築との対比でその表情を豊かにし、建築は自然のサポートを借りて居住スペースを快適にする。

森と別荘、公園と美術館、ポケットパークとカフェ、街路樹と商店街、鎮守の杜と神社、どのような組み合わせでもかまわない。緑と建築をテーマとした設計をしてほ

しい。既存の緑を借りて建築を設計するのもよし、既存の建築（都市）に緑を挿入するのもよしである。ただし、その場合は緑と建築の「新しい関係」を作ることが条件である。場所およびプログラムは各自で設定して欲しい。

【安田博道先生からのコメント】

都市には建築以外にもさまざまなインフラがあるが、そこに緑を入れて欲しいという要求であった。緑で覆われた高層ビル、街路樹を組み替えたもの、路地や民家に緑を挿入させたもの、さまざまなスケールで課題に添えてくれた。

●山中新太郎ユニット：参加者 14 名

テーマ「まちを活かす〈差異〉のデザイン」

【課題主旨】

まちにはさまざまな〈差異〉がある。中でも三田エリアは〈差異〉の宝庫である。人間の差異、時間の差異、建物の差異、速度の差異、経済規模の差異など、三田のまちには興味深い〈差異〉がたくさんある。さまざまな価値観や状態が混在するまちには独特の力強さや活力が潜在しているといえる。しかし、まちにある〈差異〉はそのままでは価値にならない。〈差異〉をまちに活かすためには、何らかの知恵が必要である。三田エリアにあるさまざまな〈差異〉に着目して、これらをまちに活かすような提案を求める。

【山中新太郎先生からのコメント】

現地調査をベースに分析的なアプローチを取る作品が多かった。東京タワーをさまざまな視点場から観察する作品や、人の動きをデザインする作品など、まちの特性が浮かび上がるような個性的な作品が揃った。

(2006年度デザインワークショップⅠ・Ⅱ幹事・

うすぎかずお・助教授、さとうあや、やすだひろみち、やまなかしんたろう・ともに非常勤講師)

※写真上段：マチ発表（建築会館ギャラリー） 下段：学内発表（CST ホール）



展示ギャラリー風景



慶応ゼミグループの参加



村上会長のご挨拶



地元まちづくり実践者の質問



宇杉ユニット発表



佐藤ユニット発表



安田ユニット発表

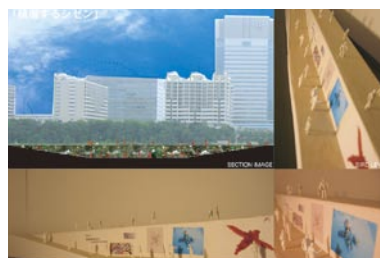


山中ユニット発表

ランドスケープデザイン

夏期集中講義報告

渡辺 富雄



「積層するシゼン」吉延詳朋

ランドスケープデザイン（設計・計画コース・3年次設置科目／選択・2単位）の夏期集中講義の報告をします。講師は、今年度から宮城俊作非常勤講師（奈良女子大学教授／PLACEMEDIA. Landscape Architects Collaborative）に代わるようになった。講義は、ランドスケープアーキテクトの視点からみた数百枚におよぶ綺麗な写真と、それらを事前にプリントした配布資料を見ながら進められた。

講義内容は、浄土庭園、禅宗庭園、枯山水、書院庭園から現代まで、そして日本から世界と、グローバルな視点でランドスケープデザインをビジュアルに通観できる魅力的なものでした。デザインを指向する皆さんには受講を勧めます。

《講義の概要》

- ・都市とランドスケープ
ランドスケープデザインのフィールドとしてみた東京
- ・日本庭園の環境文化
日本庭園に表現される自然観とその変遷
- ・風景のモデル
工業化社会の風景のモデルから脱工業化社会の風景モデルへ
- ・ランドスケープのデザイン
作品を通じてみる職能の実際
- ・課題の講評
選ばれた10作品の発表・講評

1日目の講義終了後、「都市の中の自然を顕在化させる」というテーマでA3・3枚の創作課題が出題され、

9月中旬に締め切られた。最後の講義の時間に、提出された110作品の中から選ばれた10名が発表し、それぞれについて講評が行われた。紙面の都合で詳しく紹介できないので、それぞれについて、1枚の写真とコンセプトを紹介します。

《選ばれた10作品》

- 「積層するシゼン」吉延詳朋
- 「ゴミ箱のある5×5」下田みゆき
- 「urban active green」森川龍一
- 「都市に水たまりを」森川啓介
- 「東京に環状の緑地帯を発生させる提案」佐藤明生
- 「プチ“緑”」勝原基貴
- 「意識から無意識へ—嗅覚を用いた都市自然の顕在化—」松本 隆
- 「夢前川河川敷における線上緑地計画」土屋啓祐
- 「自然の記憶」福川洋平
- 「街にとけ込む公園—幕張真砂公園—」平岡 舞

「積層するシゼン」吉延詳朋

ゴミを埋め立てることで成立した「お台場海浜公園」。 「都市のゴミ＝自然」と定義し自然を顕在化させる。遊歩道に沿ってトレンチを掘り、断面を露出し、ゴミによって積層した断面にゴミをモチーフとした作品を展示する。

「ゴミ箱のある5×5」下田みゆき

5M×5Mのサイズの中に「ゴミ箱」の機能を持たせ、デザインした。デザインは4種類用意。限られた敷地や狭い敷地に対応できるようにし、たくさんの組み合わせが可能になる。同時にゴミ箱もデザインした。半透明の



「東京に環状の緑地帯を発生させる提案」佐藤明生



「プチ“緑”」勝原基貴



「ゴミ箱のある5×5」 下田みゆき



「urban active green」 森川龍一



「都市に水たまりを」 森川啓介

プラ板とアクリル板を使って、中身が見えそうで見えないゴミ箱。

「urban active green」 森川龍一

複数のレベルの異なるスラブを歩道に配置する。それにより、街路樹と街を歩く人々が複数のレベルで街路樹に接することで、質の違う広場が生まれ、動線上に溜まりができ、豊かな都市環境が生まれることを期待する。

「都市に水たまりを」 森川啓介

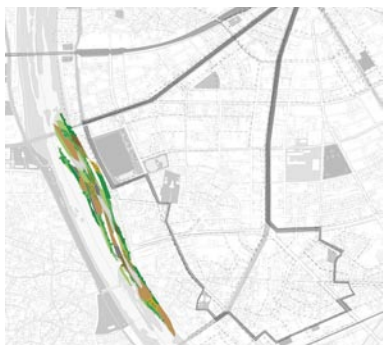
雨が降り、目の前に水たまりがあった場合、それを避けようとする意識が働く。その瞬間、水たまりの水面には空が映りこみ、都市的な自然が現れる。そして、空に対する普段とは違った意識が生まれることとなる。

「東京に環状の緑地帯を発生させる提案」 佐藤明生

花の植えられた電車が種（たね、しゅ）を交換し続け、線路沿いの特殊な空間「隙間」に花が咲く。窓越しや線路越しの、見えるが触れられない花々は、我々都市生活者と自然の間に今ある距離感にうまく一致する。

「プチ“緑”」 勝原基貴

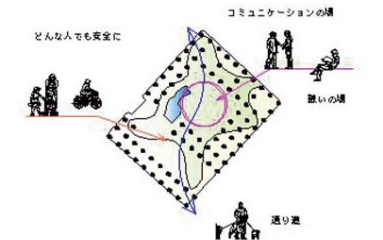
都市の緑化というものを日常生活から遊離した他人事としてではなく、都民がたった1辺10cmの立方体で出来た鉢をもち、自分が今そこに住みながら活動をしている事実を捉え直そうとする計画。人は興味があれば本格的な紅茶は飲まないが、ティーバックな



「夢前川河川敷における線上緑地計画」 土屋啓祐



「意識から無意識へ—嗅覚を用いた都市自然の顕在化—」 松本 隆



「街にとけ込む公園—幕張真砂公園—」 平岡 舞

らお茶を飲むこともある。そのような気軽さで緑と向き合えば良いのではないかな。

「意識から無意識へ—嗅覚を用いた都市自然の顕在化—」 松本 隆

人は“におい”によって無意識に昔の思い出が頭に浮かぶ。“におい”により思い出される自然をフィルターとして都市の自然をのぞいた時、人は無意識のうちに都市で自然を経験することができるのではないだろうか。

「夢前川河川敷における線上緑地計画」 土屋啓祐

「記憶の貯蔵庫」として建築物、都市は考えられてきた。私は、風景という点に着目し「記憶の貯蔵庫」というものを作り上げようとした。

英賀（あが／兵庫県）の地に場所性、時間性をまちの風景として具現化し、忘れ去られた記憶を取り戻す。

「自然の記憶」 福川洋平

自然＝緑ではない。自然は、単一的なものではなく総合的なものである。太陽の光、木々の成長、風の動きなどが合わさって自然なのである。それらがすべて重なって始めて影は、自然の記憶を写し続けるのである。

「街にとけ込む公園—幕張真砂公園—」 平岡 舞

現在ある公園は大通りに面していないながらも、周囲が木で覆われ街から孤立したものになっている。今回、道路と公園につながりを持たせ、公園内を自由に行き来できるようにし、公園をもっと街にひらかれたものにする。

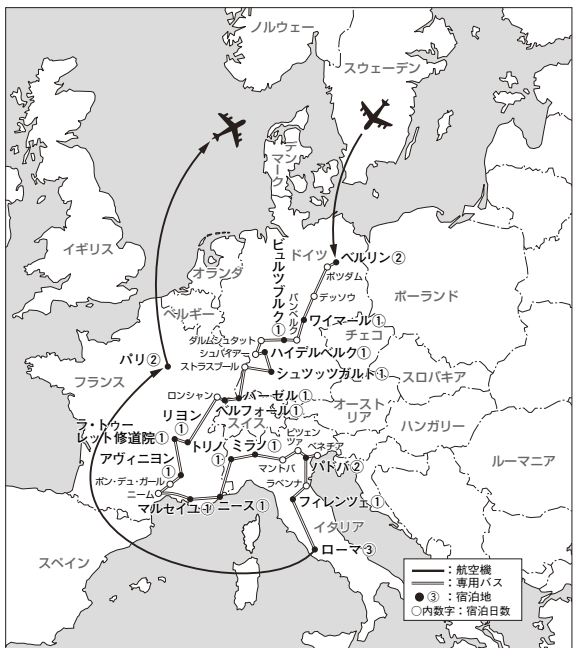
（文責：わたなべとみお・助教授／設計・計画コース学務 WG）

第38回 建築学生海外研修旅行報告

2つのコースが異なるテーマを掲げた本年度の建築学生海外研修旅行。テーマに基づいて計画されたコースを巡った25日間は、参加学生にとって何物にも代え難い経験になったことでしょう。多くの名建築を実際に見て、触れて、感じていたみんなの姿は、この貴重な時間を有意義に過ごしていることを静かに語っていました。

訪れた街の景色や人々との出会い、各地の名物料理や心地よいレストランとの出会い、そして、引率教員と参加学生との出会い。これらの出会いも海外研修旅行の醍醐味といえるでしょう。海外研修旅行を通じ、多くの出会いを経験して成長した学生たちの今後の活躍を期待します。
(田嶋和樹・助手)

Aコース ゲルマン世界からラテン世界へ —ヨーロッパの都市と建築を巡る—



アインシュタイン塔にて (A班)

〈引率教員〉大川三雄助教授、橋本 修助教授
 〈参加学生〉荒井一樹、有川慎一郎、李 雨性、岩井かおり、上野美佳子、江本やよい、落合涼子、川合順子、川越ももこ、川村裕子、来栖真弓、河野翔一郎、櫻井久巳、佐藤拓也、鈴木枝里子、須田華世、曽原知可子、高木愛子、高橋菜美、高橋佳久、竹下啓介、橘 知左、田中美希子、築山一也、辻 紗矢香、土屋沙希、土屋美寿恵、寺山靖彦、中川知英、中野文恵、西野由希子、葉山真都加、藤木 学、山内一洋、山梨絵美、和田華子 計 36名

Bコース 歴史に設計手法を学ぶ —保存・再生・転用・付加・対比—



ラビレット公園にて (B班)

〈引率教員〉重枝 豊助教授、田嶋和樹助手
 〈参加学生〉相沢真美、相馬千絵子、安達一喜、阿部達也、荒井茉莉子、飯島理絵、池田 琢、板敷匠人、居波宏和、岩崎 慎、遠藤紗貴子、小笠原順子、春日貴美子、金丸真梨、川上敏宏、菊地景子、岸 祐太、北川健太、小柳 祈、小山悠介、下田みゆき、須崎とも、土屋敬祐、土屋朋子、橋本明子、原田早矢香、檜垣幸志、久山 恵、平岡 舞、平田美紀、廣瀬彰寛、堀場勇太、松岡伸明、丸山和哉、三品明美、水越玲奈、宮沢郁子、村上 真、森 まりえ、森山直樹 計 40名

異文化コミュニケーション

川越ももこ（3年）

今回の研修旅行は私にとって、多くのものを得る機会となった。

1つめに、ヨーロッパの文化を間近に感じ、多くの新しい知識を得たことである。日本とは違う風土、歴史がそこにはあった。それらの違いが生み出すものなのか、料理、建築、習慣…すべてが日本とは違った。教会建築には圧倒的な魅力を感じた。ヨーロッパの人たちが多くの年月をかけて、さまざまな仕組みを用いて、アピールした教会たちは、誇りをもって、そこに存在していた。日本には絶対存在しないものである。その存在を知ること、私はひとつ成長したのではないかと思う。2つめは、改めて、日本の良さを感じたことである。日本にもまたヨーロッパにないものがたくさんあり、和の魅力がある。日本の良さは、清潔で、水が豊富など挙げればきりがなくなるほどである。日本人だからという鼻根目で見るとは、客観的にみることができたと思う。最後に1ヵ月ともに過ごした仲間たちである。一緒に迷い、戸惑い、感動し、語らい、打ち解け、あっという間の1ヵ月だった。感動を伝える相手がそばにて、ともに感動することができたのが、この旅行をさらに楽しくし、かつ思い出深いものにしたのだろうと思う。多くの感情を共有できたことをうれしく思う。

次に今回の旅行で印象深かった建築の一つに、テアトロ・オリムピコを挙げる。そこは現代の劇場と変わらないつくりをしていた。しかし、劇場は現代風でも、見たことのない舞台だった。舞台に、都市空間が再現されていたのである。あの狭い空間にこのように都市空間がつくられているのに驚き、面白いと思った。ここで劇をやれば、さまざまな試みが行われるだろう。そして、客席の上から、射し込む自然光が劇に時に現実味をもたせ、時に神秘性を与えるのではないだろうか。一度この劇場で劇を見てみたいものである。

この旅で、写真を見るだけでは、わからないものをたくさん発見できたと思う。



テアトロ・オリムピコ

建築に迷ったら…海外研修に行こう！

中野文恵（3年）

この旅行で最初に訪れたバウムシュレーンヴェク火葬場がとても衝撃的でした。火葬場という、自ら訪れたくもなければ、その空間に身を置いていたとも思わない場所だと私は思っています。ところがここはなぜか安心感があって居心地がとても良かったのです。

内部空間は、今まで見たことがない不思議な柱が、天井の穴にたくさん刺さっていて、そこから光が差し込んでいました。その情景はまるで異世界で、ジブリ映画の「風の谷のナウシカ」を思い出しました。私はこの映画が大好きなので、映画の中に入れたような気分になり、とても嬉しかったです。そんな思いもあって、私はあの場所が大好きなのだと思います。

建物の周辺にはたくさんの緑と、たくさんのお墓がありました。火葬場とお墓が隣接していることが、何だかとてもグロテスクな気がして怖かったです。建築内部に入ると安心できて落ち着くのに、外に出ると居心地が悪くて少し不気味でした。建築内部に吸い込まれていく仕組みのように感じてしまいました。

実は私は、現代建築以外あまり興味をもてませんでした。だから教会など見てもあまり楽しくなかったし、好きになれませんでした。ところがこの旅行で訪れたル・トロネ修道院で、私の考えは一変しました。ここには、言葉で説明できない何か、見えないパワーがあるような気がしました。そんなパワーを感じて私はこの建築に感動し、そして大好きになりました。フランスに、「建築に迷ったらル・トロネに行け」という言葉が残っているのも納得です。

この旅行で今まで興味をもつことがなかった建築も好きになることができました。そして普段話さない人や先生方と交流をもつことができました。25日間というとても長い時間を、学校の人と共同生活をおくるということに不安はありましたが、終わってみるとそれによって成長することができたように感じています。この旅行に参加できて本当に良かったです。



バウム・シュレーンヴェク火葬場

ロンシャン礼拝堂の価値、もしくは永続性

寺山靖彦（3年）

去る8月22日、ドイツからスイス、フランスを経て、イタリアに行き着く研修旅行が始まった。9月15日までの約3週間に渡る長い研修を終えて、その期間はまるで、それぞれの国によって奏でられる歌のオムニバスが優雅に、それでいて押し寄せる荒波のように一気に心に鳴り響いた。この研修期間で最も心に残ったのはロンシャンの礼拝堂である。

ロンシャンの礼拝堂は、後世に残る建築物である。なぜ残るのか、問題はそこである。研修した時間帯は霧が発生していて、敷地内に入ると霧の中に突如大地から斜めに隆起したような異質な形の建物が姿を現した。外部空間は蟹をイメージしたといわれているように奇怪な形をしている。内部空間は外部空間のそれとは違い、やさしく、静かに時間が流れていた。外から入ってくる光は少なく、薄暗い空間の中で、一番印象に残った光景は、大小さまざまな形をした窓であった。とても計算からは出せそうにない窓の配置や形は、コルビジェの理念に基づくものと思われ、人間のもつ感性を極限まで高めた結果、幾何学的性質を凌駕した証拠のように存在している。このいくつかの窓によって侵入してくる光には、ゆらめきの差異が生じていて、まるでろうそくの明かりのように生物的でやさしい印象を受ける。教会とはそのような空間のほうが正しいと錯覚するほどの力をもっている。この建築がなぜ語り継がれていくか、その問題を抱えながらこの建物を見学しているうちに、あることに気付いた。それは、薄暗い空間に、始まりを意味するような光が差し込み、その光を受けて、肉体によって抑圧されていた精神がゆっくりと解放される感覚に陥っていることだった。この、他の建築物には味わうことのできない新鮮さを与えてくれるからこそ、今でも朽ち果てることなく存在している理由だと思った。



ロンシャン教会

保存活用の可能性の宝庫

高木愛子（M1）

今回の研修旅行では、今まで机上の知識でしかなかった古典主義建築について、実際に見ながらその特徴を理解することができたことと、マルセイユのユニテ・ダビタシオンやラ・トゥーレットでの宿泊など、個人ではなかなかできないような貴重な体験をすることができたことが大きな収穫であった。また歴史的建造物の保存活用について勉強している私にとって、歴史的建造物が見事に息づいているヨーロッパの街はどこもとても刺激的であった。

中でも「カステル・ベッキオ美術館」は今回の旅行で最も楽しみにし、衝撃を受けた建物である。鉄筋コンクリートの新築であるにもかかわらず、随所に古い部材を用いた建築素材や細やかなディテールによって新旧の対比をつけながらも、全体的には見事なまでに左右の既存建築物との調和が保たれている。日本では建築家が歴史的建造物の改修を行う際、ガラス張りのカーテンウォールなどを用いて必要以上に新旧の対比がなされる場合が多い。そうした中、カステル・ベッキオ美術館は新旧の建築の調和の可能性を見せてくれているように感じた。新築のため「建築の保存例」とはいえないが、カルロ・スカルパの既存建築に基づいた設計姿勢は、これからの保存再生や歴史的建造物の周辺に建築を建てる際の指針といえるだろう。一方で今回の旅行ではとても過密なスケジュールだったため、あまり一つひとつをゆっくり見ることができなかったことや、楽しみにしていたミケランジェロの建築を、ことごとく見ることができなかったことなど、心残りだったこともいくつかあった。いつの日か再びヨーロッパの地を訪れたいと思っている。

今年の研修旅行では、事前に各建築の資料が生のまま手渡され、それを各自が自分でノートを作成した。建物のスケッチから日記まで、ありとあらゆることが書き込



まれたこのノートが、今回の研究旅行における自分自身への最高のお土産となっている。

私の建築見学ノート



カステル・ベッキオ美術館

ヨーロッパの建築を巡る

宮沢郁子（3年）

私がこの旅行に参加した一番の目的はスペインでアントニ・ガウディの建築を見ることでした。旅行のプログラムではサグラダ・ファミリア、カサ・ミラ邸、カサ・パトリーヨ邸を、自由行動ではコロニア・グエル、グエル公園を訪れることができました。ガウディの作品は一つひとつがとても色彩豊かで個性的ですが、決して浮くことなく、その躍動感と華やかさは「太陽の国」にふさわしいものでした。

今回研修旅行で訪れた国はそれぞれに特色があり、どれも本当に素晴らしく、どの国が一番よかったかと聞かれてもとても甲乙つけがたいものです。25日間を通して私が感じたものは、この先建築の勉強を続けていく上

で、貴重な財産になりました。



グエル公園

忘れられない25日間

相沢真美（3年）

ヨーロッパで過ごした25日間は言葉で言い表しきれません。雑誌や本でしか見たことがない建築を目の前にすると、自分でその建築の空間を体感することで自然と溢れ出すさまざまな感動がそこにはありました。また建築物はもちろんのこと、絵画や国によって独特の雰囲気をもつ街並み、そして人々に触れることで学ぶことは数多くありました。その中で1番は決められませんが、旅で一番長い時間を過ごせたコルビジェのユニテを訪れ宿泊したとき、私はとても幸せな気持ちになりました。それは建築の素晴らしさもあり

ますが、ユニテの住民やマルセイユの人々がこの建築をとっても愛している様子が伝わってきたからではないでしょうか。人に愛され、守られ、数十年数百年経っても生きた建築がヨーロッパには数多くありました。



ユニテ・ダビダシオン

メルシーパルドンシルブプレ

岩崎 慎（3年）

ヨーロッパ研修旅行を終えてから今日までに、あちらで経験したことがさまざまに脳裏をよぎる。パリの空港に降り立った時から始まった日本との差異の連続。自分なりに何かを日本に持ち帰ろうと必死だった。素晴らしき街、それを支える建築と人。歴史が目に見えるように重層している。そんなことを考えながらリヨンの夜、目にしたオペラ座。そこには現代的な音楽と、その空間を楽しみながら食事する人々がいた。非常に歴史的な建物が、現代の非常にエネルギッシュな行為を包み込む様子は、私にとって衝撃であった。そんなことも起こるんか。頭の中をひっくり返されたような気分だった。建築を見ていたのか、その雰囲気突き動かされていたのか。兎にも角にもひっくり返された分、やってやらないと悔しいね。



(@_@)!

見る、感じる、考える、旅

久山 恵（3年）

どの街にあっても広場は人々の行き交う道であり食事や会話を楽しむカフェのテラスであり遊び場でもあり、つまりは日常生活の憩いの場として大きく機能している。今回の旅で私も行く先々、広場で座り込んでサンドウィッチをほおぼり人々の生活を眺めてきた。広場を通り抜ける風は夏の厳しい陽射しの中でも心地良く、外の空気を吸い込む喜びを感じる。人々が集い、時間の流れを楽しんでいる空間が街の中にあることで人々の生活に必然と潤いとゆとりが生まれていき、そのゆとりが人々の芸術的感性や観察力を磨いてきたからこそ、芸術の溢れるヨーロッパがあるのではないだろうか。建築物の間に用意された空きの空間として広場は存在するが、これ

もまた建築空間と呼べるものであろう。



フランス・アルル

ヨーロッパで考えたこと

須崎とも（3年）

初めてのヨーロッパ大陸。多くのモノを見て、日本ではできない経験をし、たくさんを感じ、考えてきました。一番強く感じたのは、都市は人が作るもの、ということです。本当に当たり前のことですが、人々が自分の住んでいる街を誇りに思い、大切にすると、その気持ちが、街の景観や建築に現れるのだと思います。この環境が、多くの巨匠を生み出し、また素晴らしい建築を生む原動力になっていくのでしょうか。スクラップ&ビルドが大半の日本は、古きを大切に、後世に受け継ぐ心を、もっと学ばなければならないと感じました。残り少

ない大学生活ではありますが、その中で私たちにできることを学び、社会に出て日本の建築に貢献していきたいです。



ラ・トゥーレット修道院

刺激

安達一喜（3年）

今回の海外研修は自分にとって自信につながるものになった。大学に入って3年目。机の上の勉強が多く、本当に自分の力になっているのか不安だった。しかし、この研修で先生と建築物の構造のことを話すことができ、これまでの勉強がきちんと身につけていたということがわかった。それに加えて、建築が大好きな人と一緒にいろいろと回れたのも大きな刺激になった。朝起きてから夜寝るまで建築だけの1日は毎日が充実してかつ楽しい。かけがえのない経験ができた。

この写真は、この旅の中で最もインパクトを受けたものの1つで、ノーマン・フォスターのドイツ連邦議会新議事堂である。形態が構造を表しているという点で今回見た建築物の中では群を抜いていた。



ドイツ連邦議会
新議事堂

建築に国境はない

檜垣幸志（3年）

情熱の国に降り立った。そう、リーガ・エスパニョーラの国だ。キャンプ・ノウを訪れた時にグジョンセンがいたことが思ひ出。そしてフランス。そう、リーグ・アン。結局リベリーが残留したマルセイユの試合を観たかった。SKYWAVEの名前がこっちはBURGMANでびっくりした。そして、スイス。中田浩二のバーゼルに宿泊。バス移動中、標高が高いので街の中に雲があるという幻想的な景色を見ていたら目の前をZX-10Rが駆け抜けていった。そう、Ninjaである。日本車はたくさん見たがまさかNinjaが見られるとは思わず感動。それからGSX1000KATANAを探したが見つからなかった。そしてついにイタリア入国。そう、セリエA。フィレンツェではまだバジジョとパティストウータが人気だと信じて

いたが今のフィオレンティーナはトニのものだった。



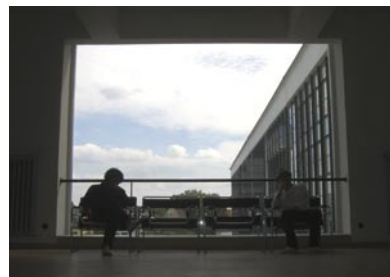
ユニテ・ダビタシオン
屋上公園

建築に夢をみた

北川健太（3年）

今こうして写真や日記や資料を眺めながらふりかえる…。実際に触れて、空気をすって、音を聞いて、時間が流れて、速度があつて、文化があつて、そこに自分の意思がある。今までは訪れた世界の画像を視覚で捕らえていたが、今回の参加者は今ではそこにスピリットだけを飛ばして現地の粒子とシンクロし、風になることができます…。はい。…さて、ガウディ、スカルパ、グロピウス、ミース、ル、テラーニ、ヘルツォーク、ジャン、フォスター、ペロー、ド・ムーロン、忠雄 etc と巨匠たちの作品を見て、感じて、学び、この人たちを趣味ではなく、同じ土俵で建築をやるライバルにする！というのは、夢のある、一生をかけてやっていけるなかなか気持ちのいい生き方だな～とあらためて思いました…。でかいことを

を言ってみました。



Bauhaus Wassily
Chair
左・グロピウス
右・ミース

オリエンテーション報告

富田隆太

7月15日(土)に、建築学科2年生を対象としたオリエンテーションが実施されました。この企画は、関東近郊の建築施設の見学を通して、専門的な視点から建築を勉強してもらうとともに、教員と学生の親睦を深めることを目的に毎年行われている行事です。企画された計8コースは、各先生方の専門性が活かされたものとなっており、今後の学習に大いに参考になったと思われます。A～Fコースまでは貸切バスで、G、Hコースは公共交通機関を利用して見学場所を移動しました。

見学先は、最近話題の建築から歴史的建造物、研究棟、大空間建築とバラエティに富んでおりますが、これらは各コースの先生方のすべてオリジナル企画です。

当日は、見学先で行われるOBの方々や施設の方々、また教員による専門的な説明に、熱心に聞き入る姿が印象的でした。実際に、建築空間を体験することで、より一層建築に興味をわいてきたのではないのでしょうか。

今年は、例年に比べて、1ヵ月遅く実施されたことや3連休の初日であったため、一部のバスコースでは渋滞などにより全部の見学先が十分に回れなかったことが残念ですが、それぞれのコースで成果が十分に得られたと思います。また、見学後あるいは昼食を兼ねての懇親の場も用意されており、普段の授業とは違うリラックスした形式で、先生方や先輩たちとのコミュニケーションが図れたのではないかと思います。

今回のオリエンテーションを通して、皆さんが「建築」に対して思ったこと、考えたことなどを、今後の勉強に役立ててもらいたいと思います。

(2年クラス担任・とみたりゅうた・助手)

<p>Aコース『信州ツアー、伊東豊雄と藤森照信』 松本市民芸術館、神長官守矢史料館 ◎今村雅樹、本杉省三、横河 健、佐藤光彦</p>
<p>Bコース『新しいまち「つくば」有名建築家、作品の宝庫をたずねる』 東小学校、つくば国際会議場、セキショウつくばオフィス、つくばオフィシアネックス、つくばカピオ、つくばセンタービル、つくばエクスプレス駅舎、竹園西小学校、南3立体駐車場 など ◎八藤後 猛、関口克明、渡辺富雄、小平恵一</p>
<p>Cコース『日光コース』 イタリア大使館、田母沢御用邸、金谷ホテル、日光東照宮 ◎片桐正夫、大川三雄、重枝 豊、宇杉和夫</p>
<p>Dコース『梅雨明けの甲州路』 山梨学院シドニー記念水泳場、山梨県笛吹川フルーツ公園、Kai・遊・パーク、リゾナーレガーデンチャペル など ◎斎藤公男、清水五郎、岡田 章、平野修也、宮里直也</p>
<p>Eコース『建築の環境と技術を「体感」しよう!』 都市住宅技術研究所、川越の蔵造りの町並み など ◎井上勝夫、半貫敏夫、橋本 修、富田隆太</p>
<p>Fコース『さいたまの大規模開発事例をめぐる』 みそのウイングシティ(さいたまスタジアム含む)、さいたま新都心(さいたまスーパーアリーナ含む) など ◎三橋博巳、根上彰生、宇於崎勝也、柳田 武、川島和彦</p>
<p>Gコース『環境建築を支える設備技術の見学』 東京ガス環境・エネルギー館、横浜大榎橋国際客船ターミナル(大空間)、横浜情報文化センター(サステナブルビル) など ◎早川 真、三上功生</p>
<p>Hコース『北の丸公園散策ー建設技術と伝統工芸に触れるー』 日本武道館、科学技術館、東京国立近代美術館、工芸館 ◎白井伸明、安達俊夫、山田雅一、田嶋和樹</p>



埼玉スーパーアリーナの見学 (Fコース)



免震体験 (Hコース)



つくばセンタービル前にて (Bコース)

2006年 関西研修旅行報告



平城宮にて 先生より説明を受けている



平城宮東院庭園にて 短時間でスケッチに励む学生

建築史建築論研究室では毎年2月に関西研修旅行を開催しております。今年も2月18日(土)～22日(水)の期間で関西へ行きました。関西研修旅行は、古いものから近代まですべての時代の建築が多数存在する関西へ行き、普段勉強している建築物を実際に見ることで、さらに理解を深めることを目的としています。そして、先生方の解説や、先生への質問を通し、新しい建物の見方や考え方など学ぶ、建築学科ならではの研修旅行です。今年の参加学生数は34人、引率教員は6人でした。

《見学先》

2006年2月18日(土)

- ・東大寺(南大門, 大仏殿, 二月堂, 三月堂)
- ・平城宮(東院庭園, 平城宮左京三条二坊宮跡庭園)
- ・薬師寺
- ・唐招提寺

2006年2月19日(日)

- ・法隆寺
- ・慈光院
- ・平等院(鳳凰堂, 鳳翔館)
- ・萬福寺

2006年2月20日(月)

- ・園城寺(三井寺)
- ・紫織庵
- ・無名舎(吉田家)

2006年2月21日(火)

- ・無鄰庵
- ・南禅寺
- ・京都近代美術館
- ・京都会館
- ・平安神宮
- ・琵琶湖疎水記念館
- ・ウェスティン都ホテル佳水園(見学および宿泊)

2006年2月22日(水)

- ・綿業会館
- ・旧甲子園ホテル(武庫川女子学院)
- ・旧山邑邸(ヨドコウ記念館)

この他にも、目的地から目的地にある建築物を外観のみ先生より説明をいただく機会も多くありました。また今回は国宝「園城寺」の光浄院客殿や金堂に入る機会をいただきました。金堂は修復中であり、ちょうど屋根の松皮葺の葺き替えなど、実際の工事風景を観させていただきました。

(幹事・牧野 徹, 上田浩子・ともに片桐研 M2)

実物に触れることの大切さ

高橋菜美(3年)

はじめは、ほとんど知識などない状態で、旅行気分であっさり参加しました。事前にいただいた資料などを読んでいたのですが、やっぱり図面と見比べながら実際の建物を見てみると、授業などでは理解できなかったところも理解できました。また、建物のスケールの大きさも体感でき、1本1本の部材の太さや大きさに驚きました。短期間にいくつもの建築を続けて見たことで、どこを重点的に見ればいいのかだんだんとわかるようになってきたし、時代による構造の相違に触れることができました。

例えば、薬師寺・東塔の三手先と東大寺の六手先では、図面上でもだいぶ異なりますが、それ以上に実際の東大寺の軒は薬師寺に比べて深く、重厚感がありました。また、法隆寺の軒も東大寺と同じくらい出ていましたが、異なる手法を用いたために東大寺よりも軽く感じたりしました。これらのことは、実際に見てみなければわからなかったことだと思います。

私はこの旅行の前に建築の保存・再生についての授業を受け、興味をもちはじめたところでした。京都の街並みには、伝統的な建築に新たな用途を見いだし、今でも昔のままの建物を保存していました。では、どのように保存していくのか? 今回の無名舎では、白生地染呉服を扱っており、日本家屋の店舗がびったりで違和感がありませんでした。今では店舗棟と住居棟に分かれ、そこは展示場にもなっているとのことでした。確かに住居としては段差も多く、手入れや掃除も大変で住みやすいとはいえないと思います。しかし、それでも昔からの建物

や街並みを大切にしていけることで、私たちがいつまでも日本の伝統を忘れずにいることができるのだと思います。このように思うことができるようになったのは、実際に住んでいる方の話を聞いたことや、生活に触れることができたからだと思います。

建築以外のこともいろいろと体験できました。参加者みんなで夕飯を食べることができたり、夜の自由時間があったり、建築を学びながらも関西を楽しめたと思います。この旅行で友達になれたり、話ができたりした人たちからは、自分と違う考えを聞くことができました。勉強ばかりの1週間ではなく、楽しみもあるからこそ、集中できたのだと思います。

この研修旅行では、今までの何回分の授業よりも建築のことを理解することができたり、普段あまり接触のない先輩方とも接することができました。私にとって、かけがえのない研修旅行となりました。

日本建築は奥が深い

辻 紗矢香（3年）

関西研修旅行で良かったこと、それは、今まで以上に建築に興味をもてたことです。

旅行に参加する前は古建築についてほとんど知識がなかったので、大丈夫かなという不安はありました。しかし、事前に冊子が配られ、そこに見学する建物の図面や資料が細かく載っていたため、どのようなものを見るのかある程度把握していくことができました。

見学中は先生が説明してくださったので、時代背景や建築物のどこを見たら良いのかはわかりました。そのため、個人で行った時では気付かないようなことまで聞け、吸収することができたと思います。授業で写真を見るだけではあまり理解できなかったことも、実際訪れ、中に入って空間を感じることで、分かることがたくさんあるのだと実感しました。私が一番気に入ったものは「慈光院」でした。建物の中に座って見た外の眺望は最高でした。ここの庭園は主景を生かすため石組みを行わずに刈り込み一式の庭とし、刈り込みの高低を用いて、あたかも眺望の景を額縁に入れたように感じさせるという工夫がされているそうです。景色の切り取り方ひとつを

とつても、日本建築は奥が深いなということを、改めて感じさせられました。

少し後悔したことは、2年前期の建築史Iの授業をもっと真面目に聴いていれば良かったということでした。しかし、この旅行を通じて、もっと古建築や町屋について学びたいと思ったことは大きな収穫だったと思います。

この気持ちが薄れないうちに、2年の前期に総合教育科目で京町屋について行っている歴史環境論を受講しました。授業では、京都の街並みをビデオで見たり、町屋の図面が配られたりすることがありましたが、この旅行で実際訪れたところとリンクさせることで理解が深められました。

もう一つの大きな収穫は、いろいろな人と知り合えたことです。建築学科は普段なかなか他学年の人と関わる機会がありませんが、この旅行を通じて新たな人との出会いがありました。先輩たちの話を聞いたり、相談に乗ってもらったりしました。関西研修は単に建築を見て回るというだけではなく、人との交流や美味しいものめぐりという楽しみもあり、あっという間の5日間でした。

町屋で生活に触れる

橘 知左（3年）

建築史の授業を受けてから関西研修旅行に行ってもよかったです。1年の時に行っていたら、建物を見ても先生の説明を聞いても理解できなかったと思います。引率が歴史研の先生なので、聞きたいことやわからないことは質問すると必ず詳しく丁寧に説明してくれました。一緒にきていた大学院生とも仲良くなって、いろいろと話を聞くことができました。私が一番行けてよかったと思ったところは、京都の町屋です。京都は何回も行って、行ったことのある場所も結構ありましたが、町屋は個人では絶対に入れない場所なので、初めて中に入りました。実際に人が住んでいて、生活感があり、とてもよかったです。住んでいる人はやはり昔の建物なので使いづらい、とおっしゃっていました。しかしこういう歴史的な建物は残していきたいし、使わないで保存するよりもずっと使い続けていくべきだと思います。



園城寺にて 国宝光浄院客殿の見学



南禅寺にて 琵琶湖疏水の水路



日昇別荘にて 参加者全員での集合写真

オープンキャンパス 2006

石垣秀典

「CST オープンキャンパス 2006」が7月30日（日）に船橋キャンパスで実施され、たくさん的高校生が来場してくれました。このオープンキャンパスは、7月16日の「CST 駿河台入試フォーラム」および11月5日の「CST 船橋キャンパスウォッチング」とともに、理工学部における教育・研究活動の実際を高校生に体験してもらえるように企画されたイベントのひとつです。

「CST 駿河台入試フォーラム」では、建築学科の特徴を高校生に分かりやすく伝えるために、学科オリエンテーションとミニ講義を実施いたしました。学科オリエンテーションは白井伸明先生が担当されて、建築学科で学ぶ意義や教育内容についての説明がありました。ミニ講義は今村雅樹先生と岡田章先生が担当されました。今村先生は「コミュニティ・デザインと建築設計」、岡田先生は「美しい空間をささえるテンション・テクノロジー」というテーマを設定されて、建築設計および建築構造に関する講義が行われました。

「CST オープンキャンパス」では、船橋キャンパス14号館の教室で学科紹介プログラムが実施され、11号館の教室では重枝豊先生と橋本修先生によるミニ講義が行われました。重枝先生は「文化遺産の発見・保護・活用—世界遺産の作り方教えます—」、橋本先生は「音環境からみた建築デザイン」というテーマを設定されて、建



熱心な質問が相次ぐ学科相談会

築学における研究領域の幅が非常に広いことを分かりやすく高校生に伝えていただきました。一方、学科紹介プログラムでは、来場者に建築の楽しさを直接伝えられるように「究極のものづくりに触れてみませんか？」というキャッチフレーズを掲げて、田嶋和樹先生にご協力いただいたセメントによるオブジェ製作コーナー、建築学生が授業で製作した模型の展示コーナー、紙模型を使った耐震構造実験コーナーなどを設けました。例年、建築のミニ講義や学科紹介プログラムは非常に人気があり、今年も700名以上的高校生・ご父母の方が訪れてくれました。オブジェ製作や紙模型の製作コーナーは常時満席で、ものづくりの楽しさを味わっている様子が伝わってきました。

両方のイベントとともに、多くの先生方にご協力をいただいて学科相談会を開催いたしました。質問内容は、入試関連、学習内容、学生生活、卒業後の就職や資格取得まで多岐にわたっており、受験を控えた高校生の真剣な面持ちを目の当たりにして、このような機会を設けることの重要性を再認識いたしました。

オープンキャンパス関連のイベントを成功させるためには、多くの教職員ならびに学生のみなさんの協力が不可欠です。ご協力いただきました方々に深く感謝いたします。
(いしがきひでのり・専任講師)



大盛況のミニ講義



オブジェ製作に熱中する高校生

2006年度 日本建築学会大会(関東)

建築学科教室関係者発表論文リスト

○印 発表者

材料施工

1085 画像解析手法による打放しコンクリートの色むらの評価 その1 画像解析による色むら評価方法の検討 ○岡本 修(茨城高専)・大塚秀三・中田善久・藤井和俊・穴澤雅明・末永孝昭・清水五郎・毛見虎雄

1086 画像解析手法による打放しコンクリートの色むらの評価 その2 単位水量の違いが色むらに及ぼす影響 ○大塚秀三(日本大大学院)・岡本 修・中田善久・藤井和俊・穴澤雅明・末永孝昭・清水五郎・毛見虎雄

1124 昭和基地産骨材の増減によるアルミナセメントコンクリートの低温環境における強度の変化について ○内藤正昭(日本大)・平山善吉

1488 木質系箱形集成部材の力学的性状ならびにプレストレスによる性能の向上に関する基礎的研究 ○平野修也(日本大)・清水五郎

1526 大谷石の物性と耐久性向上に関する研究 ○清水五郎(日本大)・國安 瑛

構造 I, II, III, IV

20054 吹雪流中の高床式建物模型周囲に発生する吹き溜まりに関する研究 その1 迎角45°の吹雪風洞実験と南極フィールド実験における吹き溜まり形状の比較 ○桑野克彰(日本大大学院)・佐藤寿樹・宍戸武志・高橋弘樹・半貫敏夫

20055 吹雪流中の高床式建物模型周囲に発生する吹き溜まりに関する研究 その2 迎角45°の吹雪流における吹き溜まり量の一般化表現 ○佐藤寿樹(日本大大学院)・桑野克彰・宍戸武志・高橋弘樹・半貫敏夫

20076 競技場スタンドを覆う片持式屋根構造の流体計算 ○早川 輝(NTT ファシリティーズ)・平松和嗣・斎藤公男・岡田 章・長江健治・木下昌彦・阪田 升・中山 浩成

20249 小規模建築物の地盤補強に用いる杭工法に関する検証 その2 ○佐藤 隆(住友林業)・田代郁夫・塩沢伸明・安達俊夫

20290 セメント系砂質改良土の強度・変形特性 その10. 残留強度の評価 ○山田雅一(日本大)・安達俊夫

20315 締固め改良地盤の改良範囲と沈下挙動に関する研究(その2) 実験の再現性と碎石幅の変化に伴う影響 ○田口智也(日本大)・安達俊夫・山田雅一・吉富宏紀

20326 改良地盤上に支持された基礎ブロックの起振実験 その7 2タイプの基礎ブロックの地震観測結果およびその解析 ○池田能夫(大成建設)・下村幸男・川村政史・秦 一平・石丸辰治

20328 平成16年新潟県中越地震による小規模建築物の宅地・基礎の被害 その11 宅地造成地盤の2次元FEM地震応答解析 ○大島快仁(地震工学研究所)・安達俊夫・神田 亮・谷脇紗和

20343 薄板材を用いた木質HP曲面の基礎的研究 その1 板材の構成方法が荷重伝達メカニズムに及ぼす影響 ○豊嶋昭彦(戸田建設)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・藤木瑛子

20344 薄板材を用いた木質HP曲面の基礎的研究 その2 模型実験及びユニット連結時の挙動の把握 ○藤木瑛子(日本大大学院)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・豊嶋昭彦

20358 F. Otto型ラチスシュェルの形状決定手法に関する基礎的研究 ○豊田良平(桂設計)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・吉野誠一

20359 樹木構造の「構造形態」に関する基礎的研究(その1) 示力図を用いた部材配置決定方法の提案 ○森永信行(日本大大学院)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・坂井 初

- 20360 樹木構造の「構造形態」に関する基礎的研究
(その2) 座屈性状と水平荷重抵抗性能の把握 ○坂井初(大塚建築構造設計室)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・森永信行
- 20394 レンズ型二重空気膜構造の基本構造特性
その5 動的な基本特性の把握実験 ○坂本憲太郎(金箱構造設計事務所)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也
- 20395 レンズ型二重空気膜構造の基本構造特性
その6 数値解析による動的な基本特性の検討 ○韓 永輝(日本大大学院)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・坂本憲太郎
- 20396 内部に骨組膜構造を有する密閉型空気膜構造の基本的性状の把握 その1 解析手法と風荷重時の挙動について ○山内麻莉(日本大大学院)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・滝本秀明
- 20397 内部に骨組膜構造を有する密閉型空気膜構造の基本的性状の把握 その2 構造計画図, ネット補剛の提案及び温熱環境について ○滝本秀明(竹中工務店)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・山内麻莉
- 20406 独立型スタンドルーフの構造計画的考察
その1 規模・構造システム・構造挙動の相関について ○清水建吾(NTT ファシリティーズ)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・宮下正人
- 20407 独立型スタンドルーフの構造計画的考察
その2 地震時の挙動～捩れ振動について ○宮下正人(日本大大学院)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・清水建吾
- 20408 張弦シザーズ構造におけるメカニズムの推移とジョイントの挙動に関する研究 (その1) ストリング張力の変化に伴う抵抗メカニズムの把握について ○櫻井優貴(日本大大学院)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・田中 晃・門脇一仁
- 20409 張弦シザーズ構造におけるメカニズムの推移とジョイントの挙動に関する研究 (その2) 「滑り」の発生が構造システムに及ぼす影響について ○門脇一仁(飯島建築事務所)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・田中 晃・櫻井優貴
- 20410 集積型木質吊屋根構造の構造特性に関する基礎的研究 ○長嶋明大(テクノシステム)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・廣石秀造
- 20412 Tensegric Truss TypeⅢの壁面構造体への適用性に関する研究 ○千田健二(法務省)・斎藤公男・岡田 章・宮里直也・瀧口真衣子
- 21125 慣性質量効果を有する系の応答性能図表
その1. 慣性質量を用いた系の特性について ○秦 一平(日本大)・長谷川 純・石丸辰治
- 21126 慣性質量効果を有する系の応答性能図表
その2. 応答性能図表について ○長谷川 純(石本建築事務所)・秦 一平・石丸辰治
- 21201 学校施設における災害時の情報伝達システムの確保に関する研究 その1 研究概要 ○安達俊夫(日本大)・安達 洋・田嶋和樹・酒匂教明・仁平瑛士
- 21202 学校施設における災害時の情報伝達システムの確保に関する研究 その2 アンケート調査 ○仁平瑛士(日本大)・安達 洋・安達俊夫・田嶋和樹・酒匂教明
- 21203 学校施設における災害時の情報伝達システムの確保に関する研究 その3 ヒヤリング調査 ○酒匂教明(日本大)・安達 洋・安達俊夫・田嶋和樹・仁平瑛士
- 21204 学校施設における災害時の情報伝達システムの確保に関する研究 その4 情報伝達媒体とシステムに関する提案 ○木原雅巳(日本大)・関根好文・安達 洋・田嶋和樹・酒匂教明・仁平瑛士
- 21370 トグル制震装置を設置した伝統木造架構の実大振動実験 その1 制震補強前・補強後の架構の動的特性 ○北村尚久(日本大大学院)・石丸辰治・石垣秀典・秦 一平・山中祐一・魚津忠弘
- 21371 トグル制震装置を設置した伝統木造架構の実大振動実験 その2 シミュレーション解析 ○倉形純一(日本大大学院)・石丸辰治・石垣秀典・山中祐一
- 21372 トグル制震装置を設置した伝統木造架構の実大振動実験 その3 複素固有値解析による減衰性能の評価 ○牛坂伸也(日本大大学院)・石丸辰治・石垣秀典
- 22292 実大鋼構造柱梁接合部の延性破壊—脆性破壊遷移実験 その3 従来型スカラップ工法による柱梁接合部破壊実験 ○新井佑一郎(日本大)・半貫敏夫・秋山宏・山田 哲
- 22360 梁降伏型魚骨多層骨組の基準損傷分布則 ○小久保 彰(日本大)・半貫敏夫・秋山 宏
- 22361 梁降伏型鋼構造魚骨形骨組の最適強度分布 ○柳田佳伸(日本大)・半貫敏夫・秋山 宏
- 23047 廃棄物の基本物性と構造物への適用性評価に関する研究 その1 細骨材との内割置換(TypeⅥ)

○佐藤眞介(商報舎)・岡村武士・岩田成子

23048 廃棄物の基本物性と構造物への適用性評価に関する研究 その2 複合材の特性と内部機構(Type VI) ○岡村武士(日本大)・佐藤眞介・岩田成子

23110 鉄筋コンクリート造有孔梁の開孔補強方法に関する研究 その1 実験概要 ○田所 修(TM技研)・三澤智史・香取慶一・三橋博巳

23111 鉄筋コンクリート造有孔梁の開孔補強方法に関する研究 その2 実験結果の検討 ○三澤智史(東京工業大)・田所 修・香取慶一・三橋博巳

23128 ひび割れ計測結果に基づくRC梁部材の残余性能評価 その1 ひび割れ幅・間隔による経験部材角の評価 ○石森昭行(日本大大学院)・中村隆大・田嶋和樹・白井伸明

23129 ひび割れ計測結果に基づくRC梁部材の残余性能評価 その2 部材角に基づく残余性能の予測 ○中村隆大(清水建設)・石森昭行・田嶋和樹・白井伸明

23241 無収縮グラウトの力学的特性に関する基礎的研究 ○藤城好将(日本大大学院)・横内 基・北嶋圭二・田嶋和樹・白井伸明

23325 RC造ボックス型耐震壁の終局限界性能評価に関する動的非線形3-D FEM解析 その1 試験体の離散化および感度解析 ○杉 太地(日本大大学院)・尾崎龍太郎・鳥田晴彦・田嶋和樹・白井伸明

23326 RC造ボックス型耐震壁の終局限界性能評価に関する動的非線形3-D FEM解析 その2 解析結果および考察 ○尾崎龍太郎(東急建設)・杉 太地・鳥田晴彦・田嶋和樹・白井伸明

23327 RC造有孔梁のせん断抵抗機構に関する検討 その1 既往の実験データによるせん断設計式に関する考察 ○河村 準(日本大大学院)・五十嵐一洋・田嶋和樹・清水 泰・白井伸明・宮崎絃光

23328 RC造有孔梁のせん断抵抗機構に関する検討 その2 FEM解析によるせん断抵抗機構に関する検討 ○五十嵐一洋(清水建設)・河村 準・田嶋和樹・清水 泰・白井伸明・宮崎絃光

23329 既存RC造校舎の実大実験に関する3次元FEM解析による耐震性能評価 その1 FEM解析による実験結果の再現性 ○橋本 浩(日本大)・惟 義英・横内 基・北嶋圭二・安達 洋・田嶋和樹・白井伸明

23330 既存RC造校舎の実大実験に関する3次元FEM解析による耐震性能評価 その2 内部損傷状態の把握とひび割れ幅評価 ○惟 義英(織本匠構造設計研究所)・橋本 浩・横内 基・北嶋圭二・安達 洋・田嶋和樹・白井伸明

環境工学 I, II

40007 屋外空間での演奏に影響する騒音及び反射音の条件 ○菅沼太郎(日本大)・井上勝夫・橋本 修・小林 彩

40008 ノイズ・残響音場における電気音響拡声品質の主観評価 ○山口琢二(YKK AP)・橋本 修・井上勝夫・大澤邦昭

40009 残響と騒音が音声聴取に与える影響についての検討 ○小林秀彰(日本大大学院)・橋本 修・井上勝夫

40012 初期音と後期音のStrength Gを用いた音場評価法 ○小林方美(日本大)・星 和磨・羽入敏樹・関口克明

40013 ノイズ・残響下におけるサイン音の知覚に関する基礎的検討 音による視覚障害者誘導設備計画に関する考察 ○浅野裕子(日本大大学院)・橋本 修・井上勝夫

40019 複数のカーディオイドマイクを組み合わせた複数音源および移動音源の方向検出方法 ○稲毛大輔(日本大大学院)・星 和磨・羽入敏樹・関口克明

40056 集合住宅の音環境性能に対する説明要求住宅購入時の消費者要求と住宅性能表示制度：その8 ○阿部今日子(日本 ERI)・井上勝夫・大室諒知

40057 集合住宅の音環境性能に対する住まい方の効果 住宅購入時の消費者要求と住宅性能表示制度：その9 ○大室諒知(日本大大学院)・井上勝夫・阿部今日子

40063 空洞プレストレストコンクリートパネル構造床の駆動点インピーダンス特性 ○内藤謙治(スパンクリートコーポレーション)・井上勝夫・古賀貴士・富田隆太・若井達夫

40064 床衝撃音に対する楕円形ボイドスラブの中空部分への弾性材挿入の影響 ○鹿倉潤二(栗本鐵工所)・井上勝夫・富田隆太・楳木浩行・奥田忠弘

40067 床衝撃音レベル低減量測定用試験室スラブのインピーダンス特性について ○中森俊介(小林理工学研究所)・平光厚雄・田中 学・阿部恭子・高橋 央・安岡

博人・井上勝夫

40068 乾式二重床上への積載荷重の有無による床衝撃音レベルの変化について ○高橋 央 (ベターリビング筑波建築試験センター)・安岡博人・平光厚雄・和木孝男・田中 学・中森俊介・阿部恭子・井上勝夫

40069 実験室における床仕上げ構造の重量床衝撃音レベル低減量の算出方法に関する検討 ○田中 学(日本建築総合試験所)・阿部恭子・中森俊介・平光厚雄・高橋 央・安岡博人・井上勝夫

40074 乾式二重床構造変化による衝撃力伝達特性 ○柳沼勝夫 (奥村組技研)・井上勝夫・富田隆太・稲留康一・田島裕敬

40078 衝撃力変化時の直張り木質フローリング床の駆動点インピーダンス特性 高齢者歩行時の住宅床に関する研究: その7 ○渡部和良 (旭化成ホームズ)・井上勝夫・富田隆太

40101 人の動作時を対象とした居住床の振動性能評価に関する基礎的検討 ○富田隆太(日本大)・井上勝夫

40127 情報同士の差を利用した視覚表示の提示手法 ○加納基喜 (日本大大学院)・加藤未佳・関口克明

40148 建築からの漏れ光に対する計画側の意識と街路の雰囲気形成への可能性 ○加藤未佳 (日本大)・関口克明

40487 スリット状接続構造の電磁シールド性能基準化に関する実験的検討 その6 重ね合せ接続モデル性能に対する材料間導通性能の影響度について ○吉野涼二 (大成建設)・井上勝夫・三枝健二

41026 移築再生された酒蔵の温熱環境に関する検討 ○王 岩 (日本大)・吉野泰子・関口克明・大沢 匠

41030 高齢者の冬季住宅温熱環境と人体周囲温度に関する実態調査 ○松崎温子 (日本大)・吉野泰子・関口克明

41031 身体障害者の温熱環境に関する研究 XVI 頸髄損傷者の住宅温熱環境の実態調査 ○三上功生 (日本大)・青木和夫・蜂巢浩生

41116 負荷率と外気温度を考慮したルームエアコンディショナのエネルギー消費効率 ○細井昭憲 (熊本県立大)・澤地孝男・長谷川絢子・田中堤子・坂本雄三

41295 ソーラーチムニーを主体とする環境配慮型大学校舎の自然換気に関する研究 その4 中間期, 冬

期の自然換気量の測定と評価 ○前坂彰子 (日本大大学院)・早川 眞・吉原和正・樋渡 潔・永田修三

41352 高層建築の自然換気のための壁面風圧均等化の実験 その2 ダブルスキンを持つ矩形建物模型の場合 ○早川 眞 (日本大)・前坂彰子

41359 COMIS モデルを用いた住居用高層建築の煙突効果による漏気量の低減方法に関する検討 ○藤川光利 (東北大)・吉野 博・Maatouk Khoukhi・早川 眞・李重勳・禹岡フン

41400 角柱周りの流れ場に関する数値流体計算結果と風洞実験の比較 ○安部 剛 (銭高組)・布引英夫・半貫敏夫

41413 茅葺民居における燻蒸実験と空気質に関する検討 ○吉野泰子 (日本大)・関口克明・熊谷一清

41532 住宅のエアコン暖冷房における消費エネルギー計算の標準化に関する研究 その2: エアコンの部分負荷効率と消費エネルギーに関する検討 ○田中堤子 (東京大大学院)・坂本雄三・澤地孝男・細井昭憲・長谷川絢子

建築計画 I, II

5086 地域余暇活動施設の利用実態に関する研究 大都市部における健康高齢者が利用する地域余暇活動施設の建築計画に関する研究 その1 ○山部なつ紀 (日本大大学院)・菅野明日美・八藤後 猛・野村 歡

5087 地域余暇活動施設内の交流・使われ方に関する観察調査 大都市部における健康高齢者が利用する地域余暇活動施設の建築計画に関する研究 その2 ○菅野明日美 (横浜国立大大学院)・山部なつ紀・八藤後 猛・野村 歡

5123 小学校建築の主要空間における発生音調査および音環境の印象評価に関する検討 オープンプラン型小学校の音環境に関する研究: その8 ○松本久美 (日本大大学院)・井上勝夫・富田隆太・貝瀬智昭

5124 小学校建築の主要空間における音響特性の実態調査 オープンプラン型小学校の音環境に関する研究: その9 ○貝瀬智昭 (東急建設)・井上勝夫・富田隆太・松本久美

5464 都市における「座り」空間に関する研究 ○本間章久 (日本大)・小嶋勝衛・根上彰生・宇於崎勝也

5752 パーキンソン病の住環境整備に関する基礎的

研究 パーキンソン病に対応した住環境整備に関する研究
研究1 ○長島 梢(日本大大学院)・三浦康太郎・野村 歡・
八藤後 猛

都市計画

7077 夜間の街路景観の構成要素の実態に関する研究
その1 原宿・表参道, 新宿・靖国通り, 銀座・中央通りを
対象として ○杉山遥佳(日本大)・岩田知久・小嶋勝衛・
根上彰生・宇於崎勝也

7078 夜間の街路景観の構成要素の実態に関する研究
その2 原宿・表参道, 新宿・靖国通り, 銀座・中央通りを
対象として ○岩田知久(日本大)・杉山遥佳・小嶋勝衛・
根上彰生・宇於崎勝也

7147 その1. 地域に継承された空間システム 長崎の空間と
歴史的景観システムの研究 ○佐々野好継(長崎大)・宇杉和夫・
伊藤博昭

7148 その2. 長崎に入って来た西欧の空間システム 長崎の
空間と歴史的景観システムの研究 ○伊藤博昭(日本大)・
宇杉和夫・佐々野好継

7164 景観法制定にもとづく地方自治体の景観条例の整備
状況に関する研究 ○宇於崎勝也(日本大)・根上彰生・
小嶋勝衛・市川陽子・清水友美

7189 栃木市の環境形成と平柳河岸周辺地区再生の課題
山系景観システム・水系形成システムと都市景観計画の
関係に関する研究 ○早坂麻里(三井ホームリモデリング)・
宇杉和夫・伊藤博昭

7214 国分寺・国府・総社の環境と空間・景観システム
に関する研究 武蔵野国の国分寺・総社と下野国の国分寺・
惣社の環境・景観について ○宇杉和夫(日本大)・伊藤博昭

建築経済・住宅問題

8073 建築協定にもとづく住環境の整備・保全が地価に
与える影響に関する研究 ○遠藤哲也(日本大)・小嶋勝衛・
根上彰生・宇於崎勝也

建築歴史・意匠

9020 伊勢神宮における「修理工」「故実の工」について
中世伊勢神宮の造営組織に関する研究 その6
○浜島一成

9114 オットー・ヘスラーの「キャビンシステム」について
ツァイレンバウ形式のジードルンクにおける住戸平面の
近代化 ○田所辰之助

9132 王道調査とその現状について カンボジアのアンコール
王国時代の王道と橋梁と宿駅に関する総合学術調査1
○片桐正夫(日本大)・石澤良昭・坪井善道・清水五郎・
重枝 豊・三輪 悟・小島陽子・上田浩子・牧野 徹・
チエンラタ

9133 橋梁と宿駅の現状について カンボジアのアンコール
王国時代の王道と橋梁と宿駅に関する総合学術調査2
○小島陽子(日本大)・片桐正夫・石澤良昭・坪井善道・
清水五郎・重枝 豊・三輪 悟・牧野 徹・上田浩子・
チエンラタ

9134 アンコール時代の国道6号線及びアンコール地域に
分布する古代橋について カンボジアのアンコール王国
時代の王道と橋梁と駅舎に関する総合学術調査3
○チエンラタ(日本大)・片桐正夫・石澤良昭・坪井善道・
清水五郎・三輪 悟・小島陽子・牧野 徹・上田浩子・
重枝 豊

9135 アンコール時代の Beng Mealea から Preah Khan
Kompong Svay に至る道路に分布する古代橋について
カンボジアのアンコール王国時代の王道と橋梁と駅舎
に関する総合学術調査4 ○牧野 徹(日本大)・片桐正夫・
石澤良昭・坪井善道・清水五郎・三輪 悟・小島陽子・
チエンラタ・重枝 豊・上田浩子

9136 アンコールのプリア・カンとタ・プロム, コンボンス
バイの大プリア・カンに付属するダルマサーラについて
カンボジアのアンコール王国時代の王道と橋梁と駅舎
に関する総合学術調査5 ○上田浩子(日本大)・片桐正夫・
石澤良昭・坪井善道・清水五郎・三輪 悟・小島陽子・
牧野 徹・チエンラタ・重枝 豊

■ 7月29, 30日, 港区の建築会館にて齋藤公男教授, 岡田章助教授, 宮里直也非常勤講師と空間構造デザイン研究室の学生が中心となり, 日本建築学会主催の「第6回スチューデント・サマー・セミナー」が実施された。このセミナーは, 学生が考えた案を学生の手によって実際に作り上げるもので, 共同制作からものづくりのおもしろさを体験してもらうことが主旨。今年「祭りの空間～耐災の空間」というテーマのもと寄せられた応募56作品の中から, 17の優秀作品が選ばれた。当日は, 齋藤公男教授によるレクチャーも行われ, 本学をはじめとして10大学から約130名の学生がレクチャーとワークショップに参加した。



第6回 スチューデント・サマー・セミナー

■ 9月1日, 齋藤公男教授, 岡田章助教授, 宮里直也非常勤講師と空間構造デザイン研究室の学生により, 「神田芸芸祭」において災祭ドームとして「エアードーム」と「バイオかまくら」が



神田芸芸祭

教室ぶろむなード

建設された。芸芸祭では, 防災の日にちなみ, 震災の際に大切な「つながり・交流」をテーマに, 音楽イベント, 映画上映や長岡市民との交流会などが, 建設したドームの下で実施された。

■ JR御茶ノ水駅前の商店街, 茗溪通り会と建築学科都市計画研究室有志が組織する「お茶の水アートキャンパス構想推進会議」が文化芸術を通じたまちづくりの推進の寄与を目的に, 10月9日(体育の日)に大学と地域連携のイベント第3回お茶の水アートピクニックを開催し, 大成功をおさめた。当日はスケッチ大会(700名参加), 蚤の市出店(60組), まちなみウォーク(30名)の各イベントの裏方に徹し, 早朝の設営から夕方の撤収まで3年生から大学院2年までの有志50名が活動した。



第3回 お茶の水アートピクニック

■ 宇杉和夫助教授と田口徹也氏('06年修了)共著の原著論文「小津映画『お早よう』の住宅におけるコミュニケーション・シーンについて—建築計画のための空間シンの構成及び分析に関する基礎的研究—」が, 日本建築学会計画系論文報告集NO.603(2006年5月号)に掲載された。

■ 田所辰之助短大専任講師は, 7月24日に旧元町小学校(水道橋)で開催されたシンポジウム「本郷元町パブリックデザイン連考/モダンがまちにやってきた」(主催:フォーラム元町の風)において, 講演「佐野利器と震災復興小学校」を行った。このシンポジウムは, 取り壊しが予定されている旧元町小学校および本郷元町公園の保存を訴える活動の一環として企画された。

■ 羽入敏樹短大専任講師は, 都市や建築空間における音環境を3次元的に把握するための「音場の方向情報解析手法」に関する研究で理工学部学術賞を受賞した。この研究により複数の音の方向を同時に検出することが可能となった。例えば音楽ホールや劇場の響き, 都市騒音の空間分布などの解析ができる。この技術は, 建築以外にも電気音響, ロボット工学, セキュリティシステム, 福祉など多分野への応用が期待されている。

■ オーディオに関する世界的な学術組織であるAES(Audio Engineering Society)の日本支部が主催する“ジャパンコンファレンス・福岡2006”のポスターセッション学生アワードにおいて, 星和磨君(環境・情報研D1)は「音に包まれた感じを考慮したマルチチャンネル再生のためのスピーカ配置」を発表し最優秀賞を受賞した。同じく, 稲毛大輔君(環境・情報研M2)は「複数のカーディオイドマイクを組み合わせた仮想音源分布の測定手法」を発表し, 優秀賞を受賞した。

■ 加納基喜君(環境・情報研M2)は「視覚表示の提示方法が情報取得に与える影響」を発表し, 第39回照明学会全国大会で全国大会優秀ポスター発表者賞を受賞した。

● 駿建目次

(2006.11 Vol.34 No.3 通巻140号)

表紙「ル・トロネ修道院」

撮影: 大川三雄

SUPER JURY 2006	2	2006年 関西研修旅行報告	16
インテリアデザイン2006	4	オープンキャンパス 2006	18
デザインワークショップ I・II	6	2006年度 日本建築学会大会(関東)	
ランドスケープデザイン	8	建築学科教室関係者発表論文リスト	19
第38回 建築学生海外研修旅行報告	10	教室ぶろむなード	24
オリエンテーション報告	15		